

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医療整備対策費

事業名 自治医科大学運営費負担金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療福祉連携推進課 医療人材確保係 電話番号：058-272-1111(内3278)

E-mail：c11230@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 156,000 千円 (前年度予算額： 132,600 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	132,600	0	0	0	0	0	0	0	132,600
要求額	156,000	0	0	0	0	0	0	0	156,000
決定額	156,000	0	0	0	0	0	0	0	156,000

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県では、医師の地域偏在等により、へき地においては特に慢性的な医師不足の状況が続いている。

へき地医療を担う人材の養成を目的として設立された自治医科大学で、へき地医療を担う気概を持った優秀な人材を就学させることは、将来のへき地医療従事者の確保のために必要である。

(2) 事業内容

将来のへき地医療を担う人材確保のため、自治医科大学医学生の教育に必要な経費を全都道府県で負担する。

(3) 県負担・補助率の考え方
県単独事業

(4) 類似事業の有無

岐阜大学医学部生に対する修学資金貸付事業（地域枠）。

岐阜大学の場合は学生へ県が直接貸し付けを行うのに対し、自治医科大学では、県は大学へ負担金を支払い、大学が学生に対して貸し付けを行う。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金	156,000	自治医科大学運営費負担金 基本額148,000千円（R7～） 加算額 1,400千円（R2）、1,400千円（R3）、1,400千円（R4） 1,400千円（R5）、1,400千円（R6）、1,600千円（R7）
合計	156,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県保健医療計画（第8期）

第3部第2章 医療提供体制の構築

第9節 へき地医療対策

(2) 国・他県の状況

自治医科大学は「公立へき地病院等勤務医師養成のための医科大学設置要領」に基づき全都道府県が共同で設立した学校法人で、全都道府県が運営費を負担している。

(3) 後年度の財政負担

へき地医療体制の安定的な継続のため、引き続き実施していく必要がある。

(4) 事業主体及びその妥当性

へき地医療提供体制の確保は、市町村域を超えて、より広域的に取り組むべきものであること、また、保健医療計画上もへき地医療従事者の確保について明記していることから、県が経費を負担することは妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 地域医療の体制と医師確保維持のため、事業を実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由

入学定員も限られており、就学後はほぼ100%の学生がへき地勤務等に従事できているため、指標の設定にはそぐわない。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	令和4年度（10月1日現在）は、義務年限内の卒業医師27名が県職員として県内で就業。うち、17名がへき地診療所等の医師として従事。在學生は順調に進級している。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和5年度	令和5年度（10月1日現在）は、義務年限内の卒業医師27名が県職員として県内で就業。うち、17名がへき地診療所等の医師として従事。在學生は概ね順調に進級している。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和6年度	令和6年度（10月1日現在）は、義務年限内の卒業医師24名が県職員として県内で就業。うち、15名がへき地診療所等の医師として従事。在學生は概ね順調に進級している。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 2	山間へき地の多い当県にとって、へき地の医療機関の医師確保を目的とした当事業は必要不可欠である。
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	令和7年度は、新たに3名の医師が、へき地の医療機関で従事を始めており、他の卒業生とともにへき地医療を担っている。
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価) 1	47都道府県が出資し、入学時から、将来出身県でへき地医療を担える医師としての専門教育を受けさせる当該大学のしくみは、各都道府県が別々に実施するより効率的、効果的である。

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 自治医科大学卒業医師だけでは、へき地医療をカバーできなくなっている。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 既に地域で活躍している自治医卒業医師も高齢化が進んでおり、次代のへき地医療を担う医師を絶やさず養成する必要があるため、継続すべき事業である。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課 組み合わせる理由 や期待する効果 など	
--	--